

年賀状宛名書きボランティアに参加して

古川リサ子

ずっと自分のことで手いっぱい生きてきましたが、2011年の暮れにさしかかって、そろそろ人のために時間を使う時期なんじゃないかと思い立ち、ボランティアを探すことにしました。

初めてのボランティアだったので、アルバイト経験のある「宛名書」に飛びつきました。祖父がコリアンだったため、日韓交流に興味があったことも、応募の一因です。

正直いいますと、最初は宛名ラベルの方が早いのになぜ？と置いていたんです。私自身は、手書きも愛する派なのですが。

すると当日、「手書きで1枚1枚書いた方が、“繋がり”ができる」というお話を伺い、納得の思いでした。効率の良さや、合理的なやり方を選択することも、それはそれで必要なこと。けれど、効率・合理性をすべての物事のものさしにしてしまうのは、かえって勿体ないことだと思い至りました。最近読んだ本に「非効率なものが感動を生む」と書いてあったことも思い出されました。

実際の作業はあっという間で、事務的な作業が好きということもあり、何の苦もなく終わりました。スタッフの皆さんが、しっかりと下準備を整えてくださったおかげだと思えます。



皆さん、わき目も振らずに作業中です



作業以外の、自己紹介やおしゃべりの時間も、楽しく過ごさせていただきました。スタッフの方も、ボランティアの方も、素敵なエネルギーを発して、私はとても居心地良く感じました。事前にいただいた大澤さんからのメールには、活動に関する「テスト」があると伺っていたので、少し緊張感を持って挑んでいたのですが、終始なごやかな雰囲気が流れていました。

自己紹介・「なぜ参加したか」等のお題も出ます。テストは結局なく、ホッとしましたが、団体の活動を予習して臨めたことは、自分の役割も自覚でき、よかったように思います。

終わってみて、どうして今までボランティアをやってこなかったんだろう？と思いました。何か気が重いことという思い込みがあったのかもしれませんが、もちろん、苦境に立つ方々のために活動する過程には、気が滅入るようなことや体力的にきついこともあると思います。でも、自分にもできることはあるとわかりましたし、人のために自分の時間を使う気持ちよさも知りました。これからも、できることを見つけていきたいと思えます。

貴重な機会をいただき、ありがとうございました。